

北海道整備新幹線

～ 有害残土が突然やってくる ～

- ・新青森駅～旭川駅が予定されている
- ・新青森～新函館北斗まで 2016 年に開業済み (年々乗車率減少 2016 年度 6,200 人/日 2017 年度 5,000 人/日 2018 年度 4,700 人/日→ 乗車率 24%)
- ・現在、札幌まで延伸工事中

新函館北斗駅～札幌駅までが 2030 年度完成予定だが、札幌市の秋元市長は新幹線開通を 2030 冬季五輪招致の目玉とするため、2029 完成目指して前倒しに意欲

この区間の約 8 割(169km)がトンネル区間。

・小樽～札幌間の札幌トンネルが未着工。なぜならヒ素・重金属が含まれた“要対策土”の受入先が決まらないため。

- ・トンネル発生土砂 230 万 m³見込み。その半量の 115 万 m³が “要対策土”。
- 昨年 7 月にふたつの候補地(札幌市 手稲区金山・厚別区山本)に絞られるも、住民の猛反発により現在膠着状態。今日に至っている。
- ・土砂受入側は、土の有害無害は選べない。そもそも“無対策土”にも、ヒ素・重金属が含まれている可能性は高い。

・札幌市土木職員 A さんによれば、札幌市周辺はヒ素が多く、新幹線整備のためにトンネルを掘ればヒ素が出てくるのは事前に分かったはず。とのこと。環境影響評価ではどうなっているのか

→ 平成 14 年に環境影響評価を行っているが、その後、計画が変更されトンネル区間が多くなった。自主アセスとして環境影響評価を実施しているとのこと。

札幌市 手稲区金山について

○北海道とくに札幌にはもともと有害重金属が含まれている。ヒ素は毒性のもの亜ヒ酸と毒性でない有機ヒ素があり、北海道で出てきたものは毒性ないが残土として残り酸化すると毒性になる。

○ボーリング調査は 10m×8m のトンネルに対して 6ヶ所～7ヶ所で地質を調べる。ここで要対策土か無対策土か仕分ける。

○夏の住民説明会から住民が有志で集まり、「水と安全健康を守る会」が発足。10 月には受け入れ候補地から除外を求める運動へ。1 万人もの署名を集め札幌市長あてに届けられた。現在ストップ。

○受け入れ候補地に上がった場所は採石場の跡地。もともと採石場だったため地盤がゆるく土砂災害警戒区域であり、下には小学校、老人ホーム、浄化場がある。ここに酸化して有毒になった亜ヒ酸が滲み出て流れだしたらという不安が住民に起こる。

○機構側はヒ素は自然由来だから大丈夫だと説明。ひじきにも含まれていると。

・札幌市周辺のヒ素が多いのは「海と陸の地球化学図」を見ていくと明らかになる。このサイトで近畿を検索すると福井県から京都府にかけてヒ素が多いのがわかる。

参考

『有害掘削土から手稲の水と安全・健康を守る会』

<https://teine-mamorukai.jimdofree.com/>

『北海道新幹線のトンネル工事によって出る有害掘削土受入候補地問題』

<https://note.com/enaha/n/nac477dad0a2d>

『リニアだけではない。「北海道新幹線」計画が作り出す「残土処分」問題。』 樫田秀樹

<http://shuzaikoara.blog39.fc2.com/blog-entry-685.html>

『流域の自然を考えるネットワーク』

<http://protectingecology.org/report/category/shinkansen>

『札幌市 北海道新幹線のページ(情報公開)』

<https://www.city.sapporo.jp/shimin/shinkansen/>

北海道新幹線のトンネル工事によって出る有害掘削土受入候補地問題。札幌市手稲区金山の採石場跡地を候補地から除外したい！

<https://note.com/enaha/n/nac477dad0a2d>

海と陸の地球化学図

<https://gbank.gsj.jp/geochemmap/chihoh.htm>